

# 環境と健康



廿日市市吉和公衛協の地区一斉清掃に参加する職員(上)、  
広瀬北町のグランドゴルフ大会で寄贈のテントを活用いた  
だく(下)

## 公衛協をはじめ関係者の皆さまに感謝 協会を挙げて7つのプロジェクトを展開

### 創立60周年記念事業を実施

平成29年12月4日、当協会は創立60周年を迎えました。当協会が事業を実施するにあたり、公衛協をはじめ、行政関係者、民間企業などの顧客、近隣の地域の方々など、日頃お世話になっている方々に対して感謝の意を表すとともに、連携を深めるきっかけになるよう平成29年4月から平成30年3月まで60周年記念事業「を実施してきました。

この記念事業は、1月号(507号)で紹介した記念式典・祝賀会・情報紙「環境と健康」の記念号のほか、社会貢献事業・PR活動・感謝事業・記念グッズの7つのテーマを掲げ、全センターの職員が参加し、協会を挙げて取り組んできました。

今回は、これまでに紹介していない事業について報告します。

感謝事業は、公衛協や近隣の商店街、町内会、小学校、顧客の皆さまへの感謝を伝えるために実施しました。公衛協には、日ごろの実践活動で使ったテントや看板、デジタルカメラなどの物品を寄贈しました。今後「コミュニティ活動の現場でご利用ください。

同様に、協会本部のある広島市中区広瀬北町の住民の皆さまにもイベントなどで使用するテントを贈呈し、早速、グランドゴルフ大会で活用していただきました。

社会貢献事業は、11月号(506号)で紹介した自然環境をテーマにした新たな事業、当協会の職員が公衛協活動へ参加して公衛協の皆さまと交流し連携を深める事業、

海外支援事業を実施しました。公衛協活動では、19公衛協の事業に延べ135人が参加しました。参加した職員からは、協会のミッションである公衛協の支援について、実際の公衛協活動を知るとともに、たくさんの人とふれ合う良いきっかけになったとの感想がありました。

全ての公衛協に行くことはできませんでしたが、いずれのイベントにおいても、推進委員や事務局の方々に快く受け入れていただいた事を感謝いたします。



ミャンマーからの研修生に機器を用いた測定とデータ解析を指導する当協会職員(上)、  
浄水場で水質管理の現場を視察(下)

また、新たな事業展開に向けた検討の中で、海外支援事業を実施しました。平成28年度からミャンマーを対象に検討を進め、今回、ミャンマーの行政機関であるヤンゴン市開発委員会(YCDD)から、水質検査員の派遣が決定し、水質検査の研修内容、浄水場の分析技術向上を支援する目的で1週間の来日を実現しました。

1月29日から2月2日までの5日間わたって研修を、水質検査員としてティン・ソーさんとタンダー・ミヤさん2名が受講されました。研修内容は、浄水場の見学に次いで、河川での採水、協会内の分析室において機器を用いた測定とその結果であるデータの解析方法など、2連の分析工程を実習してもらいました。

今回の研修が、ミャンマーの水道水源の保護や水環境の改善への一助となることを期待するとともに、今回をスタートにミャンマーへの分析業務を中心とした支援事業を継続して実施したいと考えています。

当協会は、多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、61年目を迎える地域とともに活動を続けてまいります。

### みんなの琴線歌

人工知能やIoTという単語を聞かない日がないほど、私たちは新聞やWebでこれらの単語をよく見かける。広島県でも、自治体や企業、大学などが持つデータと研究シーズを融合して、新商品やサービスを生み出し、地域のもつ課題を解決したりするチャレンジが生まれている。人工知能やIoTは医療ヘルスケアにおいても新しい知識の発見やサービスの創造につながっている。

### 医療・ヘルスケア×人工知能

例えば、日常的な食事や運動などをスマートフォンアプリで記録し、クラウドで管理するヘルスケアアプリが開発されている。一時的な健康管理を行うだけでなく、習慣化させることを目的とし、食事、運動、睡眠に関する知識をアプリを通じて学び、人工知能によって提案されたプログラムのもとで、生活習慣を改善する。また、健康診断等で蓄積された大容量データの総合的な分析が、診断・治療支援につながる。乳房超音波検査の動画像を用いたがん診断の支援技術の開発につながり、人工知能技術は、最近になって開発されたものではない。最先端技術である「深層学習」は、ニューラルネットワークの研究から始まり、1943年のMcCulloch&Pittsから始まったと言われている。ニューラルネットワーク以外にも、1950年頃から探索、推論、エキスパートシステム、音声認識などのさまざまな技術が開発されてきたが、深層学習が社会に知られるようになったのは、この5年のことである。これからは人工知能は人にしかできなかったことを実現していくであろうが、それは人のアイデアを実現しているに過ぎない。我々も人工知能以上にパワーアップする時代になったのではないだろうか。

(県立広島大学地域連携センター長 市村匠)



一般財団法人 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~  
**広島県環境保健協会**  
〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)  
TEL:082(293)1511 [大代表] FAX:082(293)1520

**基本理念**  
~みんなの生命(いのち)をまもりたい~  
私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、地域社会の発展に貢献します。



『脱温暖化推進員フォーラム2018』開催

活動の活性化ねらい熱く議論

3つの分科会で情報交流広がる

現在、260人余りの地球温暖化防止活動推進員と26の地球温暖化対策地域協議会、26の公衆衛生推進協議会が、県内各地で温暖化防止活動を展開しています。脱温暖化センターひろしまは、互いの活動や課題、情報などの共有および交流を通じて、温暖化防止活動の輪を広

めようと、2月9日にサテライトキャンパスひろしまで「脱温暖化推進員フォーラム2018」を開催。各地から約60人が参加しました。午前中は、「広島県の地球温暖化対策」私たちがの役割と期待されていること」と題して、広島県環境県民局環境政策課の谷本綾子主査



情報提供では推進員の役割を再認識(右)、各交流会の成果を共有するため、参加者が感想などを発表(下)



から「家庭における省エネ行動の促進強化」に向けた県の取り組みを紹介いただくとともに、私たちに期待することなどをお話いただきました。続いて、脱温暖化センターひろしまから「SDGs(＝持続可能な開発目標)」に関する情報提供や、今年度、当センターが取り組んだ「地球温暖化防止活動推進員新規養成研修」「パンフレットの作成」「光熱費節約大作戦事業」「うちエコ診断事業」「中国四国地域合同研修会」について報告しました。

午後は、「①学習活動を考える」「②教材・ツール開発を考える」「③推進員の役割と活動を考える」の3つのテーマに分かれて体験交流会を行い、参加者は興味のあるテーマを選択し、現状の振り返りや活動状況の共有、意見交換や企画づくりに取り組みました。

① 学習活動を考える

所属する団体もしくは自分自身の「強み」を洗い出し、事例を参考に「強み」を活かした企画づくりに取り組みま

② 教材・ツール開発を考える

「くれ環境市民の会」が不要になったエアバッグを用いて作成した

ごろくを体験したり、日頃の活動で活用している教材やツールの紹介

介や開発コンセプトなどを共有。また、「こんなものがあればをテーマ



テーマの異なる分科会でそれぞれの活動や課題を共有(交流会①上、交流会②中、交流会③下)

③ 推進員の役割と活動を考える

地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく役割を確認し、自身の現状を把握。「弱み」を解決するための重点目標を考えるワークに取り組みました。参加者からは、「頑張っている仲間の話が聞け、刺激を受けた」「得られた情報やアイ

アを仲間に報告し、今後の活動に活かしたい」「推進員として積極的に活動や会議に参加したい」などの声がかかれ、推進員や地域協議会、公衛協活動の活性化につながるヒントが得られたようです。当センターでは、今後も交流事業を通じて活動の活性化を図り、温暖化防止活動をより一層推進していきます。(脱温暖化センターひろしま)

平成29年度地球温暖化防止活動推進員新規養成研修

新たに6人の推進員が誕生

脱温暖化センターひろしまでは、平成15年から「地球温暖化防止活動推進員」を養成する研修会を開催しています。平成29年12月8日、新たに6人が広島県知事から推進員を委嘱されました。

研修は、前期(6/2)・中期(6/22)・後期(12/8)の3回に分けて実施しました。前期で地球温暖化の基礎知識や企画づくりの手法などを学び、中期で企画内容を具体化。その後、約5カ月間で実践し、後期で実践結果を報告するというものです。

今回、6人が企画・実践した活動を紹介します。

■エコの生活で楽しく、健康に!～あなたの家庭から脱温暖化にチャレンジ～

【くれ環境市民の会/石田美子】

電気やガソリン使用量など、エネルギー使用状況を記録できるシートを作成。消費者協議会や自治会員へ趣旨等を説明し、記録を通じて温暖化防止を考えてもらうきっかけとした。今後は、記録シートを回収・分析し、他の家庭のCO2排出状況と比較した診断結果とともに報告する。

■大崎上島わくわくフリーマーケット～家で眠っている日用品・雑貨を使ってくれる人に～

【大崎上島けんこう文化の島づくり協議会/小池



信忠・幸川弘子・亀田修子】

『家で使わずに眠っている贈答品に困っている』という町民の声に着目。フリーマーケットを通じて、必要とする人に橋渡しすることで、資源の有効活用によるごみの減量化を図った。趣旨に賛同した町民から171点もの品物が集まり、「商船祭」と「オキウラマルシェ」で出品。事業の継続を求める声が聞かれるなど大変好評で、今後、今回の反省を活かした運営方法を検討していく。

■緑のカーテンで地球温暖化防止!!教室の温度を測ってみよう!!

【布野の食と脱温暖化を考える会/花岡陽子】

三次市立布野小学校で緑のカーテンづくりに挑戦し、7～8月の10時と15時の2回、放射温度計で屋外・葉の表と裏・教室内の温度を測定。結果をグラフ化し、緑のカーテンによる効果を検証した。来年度も継続して取り組めるよう、今後、計画的に学校へ連携を働きかけていく。

■小学生による緑のカーテンづくり

【廿日市市公衆衛生推進協議会/河野稔】

「緑のカーテンを作る」ことも温暖化防止活動であることを理解してもらおうと、廿日市市立原小学校の1・2年生と緑のカーテン作りに挑戦。葉が茂ると影ができ、日光を遮ることで室温が下がり、クーラーの設定温度が高くても快適に過ごせることを実感してもらった。今後、来年度の授業カリキュラムに組み込んでもらえないか、学校へ働きかけていく。



研修で企画した取り組みの実践報告を行う受講者

(脱温暖化センターひろしま)

環境協

環境と健康のポスター！標語コンクール事業

22公衛協が活動をPR

コンクール事業に参加した公衛協は、毎年応募作品を活用したさまざまな活動を行っています。2月中旬までに届いた活動報告について紹介します。

【表彰式・展示会】

学校を訪問して表彰式を行った海田町、坂町、大崎上島町のほか、府中町は環境まつり、廿日市市は環境フェスタ、三次市は健康福祉まつり、庄原市はリサイクルフェスタ、福山市は公衆衛生大会で表彰式を行いました。今年度は、10周年記念展示と併せて開催する公衛協も多くありました。

【広報・啓発グッズ】

行政の広報紙や公衛協だより、HPへの掲載



推進委員の指導のもと作品パネル作り(庄原市)



全校児童の前で表彰式(坂町)

また、多くの公衛協が、作品を載せたクリアフォルダ、公衛協とコンクール名が入った蛍光ペン、鉛筆などを作成し、参加賞やイベント啓発グッズとして活用しています。

【手作りのパネル】

庄原市公衛協は、印刷業者に依頼して受賞作品をパネル化するだけでなく、児童と一緒に自分の作品を使った手作りパネルを作成し、ごみステーションに設置しています。今年度は美古登小学校4年生と作りました。使った材料は、選挙後不要になった掲示板の廃材であることを伝え、リサイクル活動への参加を実感してもらいました。

専門研修「企画づくりコース」開催

オモイをカタチにするプロセス学ぶ

1月18日～19日、グリンピアせとうち呉市で専門研修「企画づくりコース」を開催しました。



企画に込めたオモイを発表

「企画づくりコース」は、まちづくりや組織づくりに対する思いや願いを具現化するため、事業メニューの考え方や技法の基礎を学び、企画力を養うことをねらいに実施しています。プログラムは、地域の課題を

整理↓企画書を書く↓発表する↓講師の助言を受ける↓企画書を修正する↓発表するという作業と発表を繰り返して、オモイをカタチ(企画)にしていきます。今回は、公衛協から4団体、TEAMから3団体合計11名が参加しました。

中堅の推進委員の育成不足による事業継続性を課題にあげた公衛協では、ベテランと新人を2人1組で市町や当協会などが実施する研修会に送り込み、活動に必要なスキルを学ぶと共にコミュニケーションを図ることで、中堅推進委員を育成する取り組みを企画しました。

野良ネコのふん尿による臭いやダニによる健康被害防止を課題にあげた公衛協では、飼い主と地域住民が一緒に「の行動と性格飼育」の知識などを学ぶ学習会を開催し、地域ネコ運動を推進し、野良ネコのない安全安心な地域づくりを企画しました。

イベントの集客UPや環境と食のつながりの認識が希薄なことを課題にあげたTEAMでは、食を通じたCOO

では、食を通じたCOO

参加者が地元に戻り、それぞれの組織メンバーと企画のブラッシュアップを行い、企画を実践することで、地域の環境や健康に関する課題解決につながることを期待します。(地域活動支援センター)



私のクールチョイス

このコーナーでは、【買い替え】、【サービス】、【ライフスタイル】の3つの視点で、さまざまなクールチョイスの事例を紹介します。

- 【買い替え】省エネで高効率な家電、設備、建築物の低炭素製品への買い替えなど
- 【サービス】公共交通の利用やエコレールマークの付いた商品、グリーン電力の選択やスマートメーターによる「見える化」につながる低炭素サービスの選択など
- 【ライフスタイル】家庭でのエネルギー消費量・二酸化炭素排出量を減らす取り組みやエコドライブなど



【買い替え・ライフスタイル】(LED照明の導入・窓の断熱)

最近はLED照明の種類も充実してきたことから、家中の蛍光灯や白熱球をLED照明へ交換中です。まだ、電気代への反映が実感できるほどではありませんが、どれくらいの効果があるか楽しみです。

神石高原町は標高が高く、夏場は湿度が低いので、風通しを良くすればクーラー無しでも過ごせます。一方、冬場の寒さは厳しいので断熱、特に窓の断熱には気を遣います。リビングなど人が集まる部屋の窓には断熱シートを貼り、カーテンは厚手のものにして、熱を逃がさないように工夫しています。

(門田 耕治さん/神石高原町公衆衛生推進協議会副会長)



【ライフスタイル】(省エネ・再利用の普及啓発)

私が活動する時には、実験や体験を大事にしています。緑のカーテン運動では、ゴーヤの種1万粒を購入して実際に育ててもらい、壁面温度を熱画像イメージ放射温度計で確認します。小学校のエコクラブで、児童の提案を取り入れながら、リサイクルなべ帽子、なべ風呂敷、ペットボトル湯たんぽを作りました。湯たんぽは95℃のお湯を入れると翌朝でも60℃と一晩中温かいことを実験で確認しました。

ともに活動する村田さんと話しながら、推進員やJA女性部の皆さんと一緒に、講座やイベントを通してクールチョイスの普及・実践に取り組んでいます。

(岡田 妙子さん/脱温暖化ぬまくまフォーラム代表)



【ライフスタイル】(バイクピズ、風呂敷・水筒の利用)

自らの健康づくりを兼ねて、片道17.5kmの自転車通勤を10年以上続けています。そのイメージが強いせいか、省エネ・省資源に強固に取り組んでいるように思われますが、「できることをできる範囲で」と、気負わず・無理なく取り組めることを行っています。

家にはたくさんの生き物がおり、家から出る野菜くずは生き物の餌にする、出かける時には水筒を持っていく、風呂敷を多用するなどごみの減量にも力を入れています。

クールチョイスは、日々の暮らしの小さな選択の積み重ねです。その積み重ねが大きな力になることを信じ、皆さまに伝えることも私のクールチョイスです。

(住田 典子さん/一般財団法人広島県環境保健協会 地域支援課長)

公衛協、TEAMで活躍されているみなさんと、環境協の職員が日頃取り組んでいる「私のクールチョイス」を紹介しています。

LCHOICE推進事業として、料理教室や食べられる緑のカーテンを取り入れることで、食と環境を楽しく学べるアイデアを盛り込んだ3回シリーズ講座を企画しました。

# 国際標準 ISO/IEC17025 信頼される試験所に向けて



認定マーク (JNLA070246JPは当試験所の認定番号です)



コンクリート圧縮試験(上) 平面度測定(右)の様子



「ISO/IEC 17025」とは、試験所や校正機関が正確な結果を出す技術力があるかどうかを、審査機関が認定する国際規格の「JIS」だ。

一般的には、ISO 9001…品質マネジメントシステムやISO 14001…環境マネジメントシステムなど

「ISO/IEC 17025」は試験所認定とも呼ばれ、認定を受けた試験所は、試験成績書へ認定マークを付与して発行することができます(右図)。

現在、製造業をはじめ多くの業界で製品やサービスに対する客観的な証明が求められています。今までは社内検査で良かったものが、第三者の試験成績書が必要とされたり、第三者が発行する試験成績書でも「その結果は本場に適正な値か」その試験機関の試験技術の精度はどうか」と疑念を抱かれることも想定されます。

「ISO/IEC 17025」は、試験機関の技術能力・品質を証明するための制度であり、顧客満足の上にもつながります。

当協会の材料試験室(建設工事事務等の試験を行う部署)は、お客様の製品に公正、公平な立場で精度が高い試験結果を提供できるよう、平成19年にISO/IEC 17025の認定を受けました。当初は、コンクリートの圧縮強度試験から始めましたが、その後、お客様からの要望を受け、コンクリート試験や骨材試験などを中心に試験範囲を拡大し、現在では、14の試験項目で認定を受けています。また、2年ごとに外部審査(中間審査・更新審査)を受け、常に試験技術の精度を確保しています。

当協会材料試験室ではISO/IEC 17025を運用することにより、公正、中立な試験機関として独立性を維持し、更なる技術力の向上とお客様から信頼される試験所をめざして、今後も試験業務に取り組みしていきたいと考えています。

また、現在、食品検査部門でもISO/IEC 17025の認定取得をめざしています。

(材料試験室)

県は、食品衛生基準を満たした製造・加工施設について、独自に認証する制度を実施しています。適合した施設は、商品に「認証マーク」を貼ることができます。当協会は認証機関として、食品衛生管理の認証・更新審査や指導などを行っており、このシリーズでは、当協会が認証した事業者の声を紹介し、食品衛生管理の重要性を伝えていきます。



## ⑥ 株式会社マルヒガシ海苔



認証日:平成29年11月13日  
所在地:安芸郡海田町歌  
2丁目11-3  
創業:明治20年11月  
話し手:営業部課長 松尾 啓二 様

### 説得ではなく納得で進める衛生管理

#### 意識の統一で気付きや見直しへ

■業務内容  
創業当時から、今年で130周年を迎えます。のりは国産、とりわけ口どけや風味に定評のある有明産の一番のりにこだわって仕入れをしています。味付けをするための調味液も国産の原材料を使用し、味付けのり、ふりかけ、お茶漬けなどさまざまな製品に加工して販売しています。

製造室内を清潔にしておかなければならないという意識は従業員全員が持っていました。が、認証取得をきっかけに衛生管理に対する意識の統一が図られ動線変更したり、新たな機械を導入したりしました。あたりまえに実施してきたことを変更する点に苦労しました。何のために認証を取得するのか、どうやって機械を使えばいいのか、記録はどう取るかなど、話し合いの場を持ち、従業員を説得するのではなく、納得してもらえよう力を入れました。

■今後のステップアップ  
現在の認証維持徹底はもうそろそろ高度な衛生管理の導入を目標に掲げ、準備を進めていきたいと考えています。

■消費者の皆さまへ  
自主衛生認証で自信を持って商品をお勧めできることになりました。食卓で、私たちのこだわりのおいしいのりを楽しんでいただきたいと思います。

インタビュー:高橋 記者:馬場 田



35 熊野町

### 触診モデルで受診勧奨 体験で重要性を訴える



触診モデルでしこりの感触を確かめる来場者

1月21日(日)、熊野町民会館で「第14回筆の都くまの町健康まつり～みんなでつくろう健康くまの～」が開催されました。この健康まつりで、熊野町公衛協が「がん検診へ行こうよ!キャンペーン事業」を実施し、町内外から参集した600人ががん検診の受診勧奨を行ないました。

ブースでは、環保協や役場子育て健康推進課から借用した「乳がん触診モデル」と「喫煙と病気パネル」の展示や、広島県が作成しているがん検診受診勧奨チラシなどの配布を行いました。多くの人に関心を持ってもらおうと、女性だけでなく、積極的に男性や子どもたちにも声をかけ、実際に乳がんのしこりを探してもらって触診や検診の大切さを訴えました。

触診モデルを触った参加者からは、「胸

にできたしこりがどんな感触なのかわからなかったけれど、モデルを触ってよくわかった」「意外としっかり触らないといけないのね」「検診には行っているけれど、自分でもチェックしてみよう」「男性も乳がんになるとは知らなかった」などの声が聞かれ、改めて乳がんや検診に関心を持ってもらうことができました。

熊野町公衛協では、健康づくり事業として「がん検診へ行こうよ!キャンペーン事業」のほか、ウォーキング事業や献血などを行っています。また、今年度からCOOL CHOICE活動にも力を入れ、地球温暖化対策にも取り組んでいます。

これからも幅広いテーマ・年齢層を対象にした事業展開を期待します。

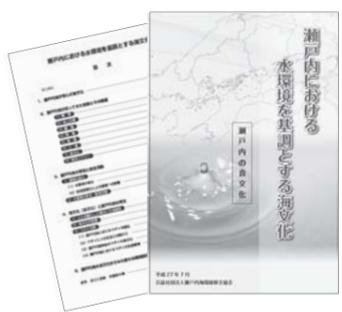
(地域活動支援センター)

『瀬戸内における水環境を基調とする海文化』の取り組みについて ④

同じ料理名でも異なる食べ物

地域によって違いのある食文化

海文化に取り組み、最初に冊子にまとめたのが『瀬戸内の食文化』です(平成27年7月発行)。3回にわたり、『瀬戸内の食文化』の内容を紹介いたします。



『瀬戸内の食文化』は、公益社団法人瀬戸内海環境保全協会のHPからダウンロードすることが出来ます。http://www.seto.or.jp/promotion/bunka

食文化の3回目は料理名は同じでも、地域によつて異なる料理が出てくることがあるという例を紹介します。

まず、「鯛めし」です。広島県備前瀬戸では、「小鯛を丸のまま釜に入れて炊く、豪快な海辺の料理である。この料理は船の上で船頭さん

が釣った獲物でご飯とおかずを度々炊いたことに始まる。」とされています。一方、愛媛県南予地方の鯛めしは、「新鮮なマダイを3枚におろし、醤油、みりん、玉子、ごま、こだわりのだし汁で調理したタレに漬け込み、タレごと熱いご飯にかけて食べると、生のマダイを使う独特の食べ方」をします。同じ愛媛県でも、中予・東予地方の鯛めしは、「尾丸ごと焼いたマダイを、醤油や塩で味付けした半炊き状態の炊き込みご飯の上に乗せ、さらに加熱して完成

させる料理」です。次に「浜焼き」です。広島県の「浜焼き」は、「尾道市周辺の塩を使った日持ちのするもので、そのおいさと保存性の良さから藩主に献上されるなど、他国への贈答品として珍重され、塩釜で蒸し焼きにすることで安全性を高め、魚をむだにすることなく食べるために考え出された調理法」です。兵庫県の「鯛の浜焼き」は、「塩田が盛んであった西播磨地域で主に加工・販売されており、鱗を残して内臓を除いた腹には型くずれを防ぐため

鶏卵を入れるなどして、塩蒸しにして、長期保存ができるようにしたものです。最後は「たこめし」です。広島県の三原市では、「新鮮なたこ(生だこ)を使った炊き込みご飯が古くから、たこめしとして食べられてきました。一方、兵庫県明石市の「タコ飯」は「干しタコ」を、焼いて薄く刻んだものを調味液に浸し、柔らかくした後、米に混ぜて炊きこんだもので、古くから受け継がれてきた浜の味」です。なお、兵庫県淡路の「タコ飯」は生ダコを使っています。

公益社団法人瀬戸内海環境保全協会



愛媛県中予・東予地方の鯛めし(上)、愛媛県南予地方の鯛めし(下)

話題の健康づくり アラカルト

19 特定保健指導

特定保健指導は、特定健診(特定健康診査)の結果を受けて実施されるメタボ予防のプログラムです。健診結果から対象者を抽出し、リスクに応じた個別の保健指導を行ない、その要因となっている生活習慣を改善、生活習慣病を予防する事が目的です。特定保健指導には「動機付け支援」と「積極的支援」の2種類があります。リスクが少な

複数のリスクがある方は、積極的支援の対象となり、動機付け支援に加え3カ月以上保健師や管理栄養士から面接・電話・メールなどで継続したサポートが

平成30年度から第3期に入り、厚生労働省の検討会で、これまでの特定保健指導の効果を検証した結果、保健指導を受けた人は、指導後3年間にわたって検

視されています。(平成27年度広島県19.8%)。受診率向上に向け、今回いくつかの制度改正がなされました。従来6カ月であった支援期間は3カ月以上となり、

短縮可能となりました。また、今までは結果がそろうまで指導はできませんでしたが、健診当日の結果が出ていない範囲であれば指導を開始してもよい事になりました。さらに、前年度積極的支援を受け、改善傾向が見られれば、積極的支援対象でも動機付け支援で済ませる事も可能です。

健診は自分の健康状態に目を向け生活習慣を振り返る絶好の機会

Table with 2 columns: 動機付け支援 (Metabo risk has appeared) and 積極的支援 (Metabo risk is high). It lists support methods like initial interviews, group interviews, and performance evaluations.

い方が受診する動機付け支援は、原則1回の個別面接かグループ面接を行ない、対象者が「行動目標」に沿って生活習慣を改善できるようアドバイスします。

この特定保健指導は

査値の改善効果が継続し、医療費も低く抑えられたとの報告がなされました。生活習慣病予防に効果があるとされる特定保健指導ですが、受診率が低い事が問題

です。ぜひ特定健診、がん検診を受診し、特定保健指導の案内があれば積極的に受診して、健康づくりを実践しましょう。

(健康増進課 笠毛郁江)



高齢化の急速な進展に伴い、疾病構造も変化し、疾病全体に占めるがんや虚血性心疾患などの割合が増加しています。また、死亡原因のうち、生活習慣病が約6割を占め、医療費に占める生活習慣病の割合も国民医療費の約3割を占めるようになってきています。

虚血性心疾患、脳血管疾患などの発症の重要な危険因子である糖尿病、高血圧症、脂質異常症等の有病者、その発症前の段階であるメタボリックシ

ンドロームが強く疑われる者を合わせた割合は、40~74歳において、男性では2人に1人、女性では5人に1人と高くなっています。

そのため、平成20年度から特定健診・特定保健指導が始まり、糖尿病、高血圧症、脂質異常症等の発症、あるいは重症化や合併症への進行の予防に重点を置いた取り組みを行うことになりました。

さらに平成30年度からは、糖尿病

平成30年度から検査項目が見直し 生活習慣の改善で疾病予防へ



絵:いらすとや

性腎症の重症化予防のため、腎機能の指標として血清クレアチニン検査が詳細健診項目に追加されたほか、歯科口腔保健の取り組みの端緒として生活習慣の改善に関する質問項目が追加されることになりました。

生活習慣病は、自覚症状がほとんどないまま進行します。不適切な食生活や運動不足、不健康な生活習慣から、糖尿病、高血圧症、脂質異常症、肥満症などの生活習慣病の発症を招き、通院・投薬が始まりますが、生活

習慣の改善がなく重症化すると、虚血性心疾患や脳卒中などの発症に至ります。

これを防ぐためには、特定健診を受診し、自らの健康状態を知り、生活習慣を振り返ることで、正しい生活習慣を取りもどすことが重要です。

当健康科学センターでも特定健診を実施しています。ぜひご利用ください。(健康クリニック 事業推進課)

### イベントカレンダー(3月)

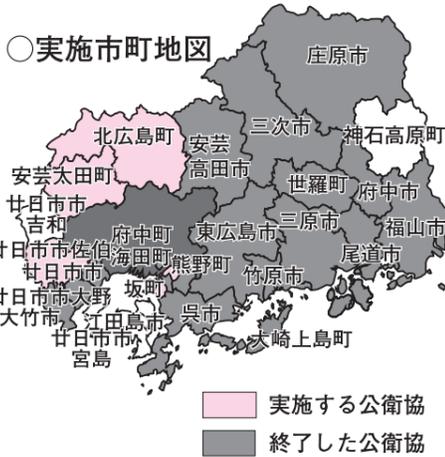
- 3月3日 地球温暖化と私たちの暮らしを考える講演会(尾道市)
- 3月4日 友和市民センター祭り(廿日市市佐伯)
- 3月8日 御大師八十八カ所巡りウォーキング(大崎上島町)
- 3月11日 献血(海田町)、東広島市川上地域センター活動発表会
- 3月14日 ブロック会議(公衆衛生会館・広島市)
- 3月15日 ブロック会議(環保協東部支所・福山市)
- 3月16日 ブロック会議(みよしまちづくりセンター・三次市)
- 3月17日 音戸地区公衆衛生大会・おんど環境フォーラム2018(呉市)
- 3月25日 悠々健康ウォーキング大会・がん検診へいこうよキャンペーン(坂町)

### 環境啓発ポスター・標語コンクール10周年 県内20方所以上で展示会を開催

平成20年度に始まった本コンクールは、これまでに累計で28万2千点超の作品(ポスター約12万1千点、標語約6万1千点)の応募があり、586点の優秀作品を選考・表彰しました。過去の受賞作品を、



三原市での展示の準備風景



実施する公衛協 終了した公衛協

より多くの皆さんに見てもらおうと、各公衛協と協働で10周年を記念した展示会を開催しています。

2月までに18の市町で展示会を開催したほか、公衆衛生大会、12月に開催した県大会など、



公衛協が主催する展示会(府中町・上、大竹市・下)

延べ21会場で展示しました。(21公衛協で計23回の開催を予定)

3月は、北広島町(ショッピングセンター・サンクス2階キヤリアー)、廿日市市佐伯(佐伯支所1階ロビー)、安芸太田町(加計ショッピングセンター・サンシャイン1階休憩スペース)、海田地域公衆衛生推進大会(海田町福祉センター1階多目的ホール)の4会場で開催が予定されています。ぜひ、会場に足を運んでみてください。

(地域活動支援センター)

### 光熱費節約大作戦! 節電・省エネに挑戦して懸賞品

広島県地球温暖化対策地域協議会連絡会(通称TEAM MAT E(ひろしま))は、省エネ意識の高い住民を増やすため、広島県省エネ活動促進補助金を活用し、県民を対象に我が家の電気消費量を確かめる事業に取り組んでいます。

この事業は、連続する3カ月間の節電・省エネ活動の成果を、前年



### 平成29年度情報紙「環境と健康」読者アンケート抽選結果のお知らせ

7月号で実施したアンケートは、181人の皆さまからご回答をいただきました。お忙しい中、たくさんのご意見をいただき、ありがとうございます。今後の紙面作成に反映してまいります。

アンケートの結果は、当会HPの「お知らせ」でご覧ください。当会HPのURLは、次のとおり。

(<http://www.kanhokyo.or.jp/>)

平成30年2月8日に行った抽選会では、ご回答いただいた皆さまの中から20人が当選されました。当選した皆さまには、景品としてクオカード(500円分)を進呈しました。

- 当選者一覧(20人、五十音順) 岩尾さん(大竹市)、岡野さん(三原市)、沖中さん(府中市)、金子さん(府中市)、北川さん(海田町)、佐々木さん(安芸太田町)、新谷さん(廿日市市)、高味さん(三次市)、武田さん(府中市)、千葉さん(福山市)、寺中さん(呉市)、戸田さん(福山市)、中尾さん(福山市)、中津さん(福山市)、中本さん(呉市)、日向さん(廿日市市)、平本さん(廿日市市)、松本さん(福山市)、山本さん(海田町)、吉武さん(廿日市市)

### 平成29年度 地区衛生組織活動資金募集



通称 『環境・健康募金』

環境・健康募金(旧 健康感謝募金)は、昭和35年から実施し、平成29年度で58回目を迎えました。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として地域社会に役立てられています。

環境・健康募金 総額(円)

**55,314,549**



事務費に配分された募金は、以下のように活用しています。

- 募金事業 PR 用ポスター、チラシ、募金袋などの作成
- 振込手数料(公衛協から募金委員会に振り込む際) など



ポスター

市町別一覧表

市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
府中町	1,591,800	95.5
海田町	2,416,402	100.7
熊野町	1,442,870	100.6
坂町	370,110	98.9
江田島市	1,829,500	98.7
竹原市	1,652,400	98.4
大崎上島町	317,100	93.0
大竹市	2,523,080	99.5
廿日市市	3,259,716	96.2
廿日市市大野	2,505,050	99.1
廿日市市佐伯	411,052	100.0
廿日市市吉和	56,700	107.0
廿日市市宮島	193,100	94.8
安芸太田町	738,500	97.8

市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
北広島町	1,084,900	99.1
安芸高田市	1,990,800	93.0
東広島市	4,266,990	95.1
三原市	1,652,580	93.5
世羅町	774,400	85.2
尾道市	4,078,400	91.0
福山市	8,599,944	96.6
府中市	1,090,714	99.5
神石高原町	353,000	121.6
三次市	2,026,673	82.0
庄原市	2,427,240	96.3
呉市	7,593,074	97.8
その他	68,454	124.0
合計	55,314,549	96.0

募金委員会事務局からのお願い

平成29年度の募金事業は3月末までとなります。お手元に募金がある場合は早めに市町公衛協事務局に届けてください。

※この表は、平成30年1月末までに市町公衛協事務局から募金委員会に振込みのあった実績額を示しています。